



第五十圖 ピーピー（阿旦葉）——現寸——

ピーピーといふのは今那覇で幼い子供達が呼んで居るので元來別の名があるかも知れぬ、阿旦の葉を採り邊緣の刺を去つて細く裂き中に長方形の孔を作り、その孔の部で二つに折り孔の處へ柔い草の葉を入れて口で吹く一種の草笛である、那覇の子供達は野を歩くとすぐ自分の丈より高い阿旦の葉を切つて之を作つて吹く、内地で二本の指の間へ草の葉を挿んで吹き鳴らすのと全く變りはない。おそらく琉球の至る處で此笛の音を聞くことが出来るであらう、之は又朝鮮の柳の笛にも匹敵すると思ふ、朝鮮では春が來ると柳の若木を採り其芯を抜き去り孔をあけ笛を作り之を吹き鳴らすのである。此等の單純な音のうちに吾々は子供の喜の如何なるものであるかを察することが出来る。

「第五十圖 ピーピー（阿旦葉）」